

ユニット2：テキストと物語（ver 2.1）

ねらい

このユニットでは、テキストと「物語」の関係について理解したのち、東南アジアにおけるテキストと「物語」の関係、クリタ・ユガ時代の「出来事」について学ぶ。

1. ナラティブ（叙述）、テキスト、ストーリー（物語）

- ナラティブ（narrative、叙述）：
 - ✧ 作者、語り手、聞き手、テキスト、コンテキスト（社会的文脈）、ストーリー（物語）
- ストーリー（story、物語）：
 - ✧ 時空間（time-space）、人物（character）、行為（act）、出来事（event）
 - ✧ 時空間としての四つのユガおよびメール山を中心とした世界
- テキスト（text）：
 - ✧ 口承、書承、イメージ
 - ✧ シュルティ（天啓文献）：ヴェーダ、口承
 - ✧ スムルティ（記憶文献）：叙事詩、プラーナ、創唱者
 - ✧ テキストの歴史的伝承と変化：物語の整理・統合・変形・派生
 - ✧ ルドラ→シヴァ、ブラーフマン→ブラフマー、ヴィシュヌ→10のアヴァターラ

2. 東南アジアのテキストとインドの「物語」

- テキストの形態：二次的なテキスト
 - ✧ 翻訳テキスト、翻案テキスト
 - ✧ 壁面の浮き彫り、演劇・芸能（語りと身体）
- インド世界と東南アジア世界を結びつける「物語」的仕掛け
 - ✧ 転生、予言
- 「言葉の力」：マントラ（呪文）、予言、呪い

3. クリタ・ユガの「出来事」

- 乳海攪拌とアムリタ：短気なドゥルヴァーサス仙の呪いで神々を力を失い、天界はアスラたちの攻撃に脅かされる。力を回復する不死の霊水アムリタを入手するために、ヴィシュヌの提案でアスラたちの協力を得て乳海攪拌を始める。大亀クールマに変身したヴィシュヌがマンドラ山を支え、大蛇ヴァースキを絡ませて、神々が尻尾、アスラたちが頭をもって互いに引っ張り合って山を回転させ、乳海を攪拌する。1000年間の攪拌後、乳海から、白象アイラーヴァタ、白馬ウッチャイヒシュラヴァス、乳牛スラビ、アプサラスたち、女神ラクシュミー、アムリタの入った壺を持つ医神ダンヴァンタリなどが現れる。アムリタは一時アスラたちに奪われるがヴィシュヌの策略で神々が取り戻す。
- ガルダとナーガの対立：カドゥルーとヴィナター姉妹はカシャパ仙の妻となり、それぞれ1000匹のナーガとガルダを生む。二人は馬ウッチャイヒシュラヴァスの色をめぐる賭をし、欺かれて破れたヴィナターはカドゥルーの奴隷となる。息子ガルダは母親の解放の代償としてナーガたちのために神々からアムリタを奪うが、ヴィシュヌに阻止される。
- ガネーシャの誕生：シヴァ神が山で修行中にパールヴァティーは息子を「生む」。入浴中のパールヴァティーは息子に人の出入りを禁じる。帰還したシヴァは家に入ろうとするが妨害されて怒り、息子と知らずに首を切り落とす。息子の命を救うために、最初に見つけた生き物（象）の頭を切り取り、胴体につけて復活させる。

参考文献：今回の講義のテーマに関わるもの

1. 青山 亨. 「叙事詩、年代記、予言：古典ジャワ文学にみられる伝統的歴史観」. 『東南アジア研究』32(1):34-65. 1994.
2. 上村勝彦. 『インド神話—マハーバーラタの神々』(ちくま学芸文庫)筑摩書房. 2003.
 1. は東南アジアのテキストとインドの「物語」の結びつけ方を分析. 2. はインド神話についての信頼できる入門書.